

世界平和の思いを込めて

伊賀一ノ井松明調進行事 (3/12)



関西に春を呼ぶ東大寺二月堂の修二会（お水取り）で使われる松明木が、3月12日、赤目町一ノ井から調進されました。「松明調進」は今年で778年続く伝統行事。地域住民で構成される「伊賀一ノ井松明講」を中心に、「春を呼ぶ会」などの協力を得ながら大切に受け継がれています。

極楽寺で道中の安全を祈願した後、松明木を束ねた約30kgの「荷」を担いで赤目口駅へ。近鉄の同乗ツアー参加者と合流し、貸切列車で奈良まで運びました。伊賀一ノ井松明講の森本芳文議長は、「世界平和の思いを込めて、誇りを持って運んでいる。担ぎ手が高齢化しているので、次代につないでいくための方法を考えていきたい」と今後の継承に向けた思いも聞かせてくれました。

広がる熱意と支援の輪

生活困窮者自立支援事業講演会 (3/20)



有限会社ウメザワ（大屋戸）の梅澤尚史^{たかふみ}さんが、生活困窮者自立支援事業の講演会で登壇。「引きこもりの人や、職場環境になじめず無職の期間が長かった人を雇用し、今は会社に欠かせない存在となっています。人材不足の中、就労体験を受け入れることは、新たな雇用の扉を開く貴重な機会。1社でも多く支援の輪に加わってほしい」と語りかけました。

実はこの登壇は、広報なばり2月号の特集記事がきっかけでした。取材に同行した市社協の中川久美子さんが、梅澤さんの熱い思いに触れて登壇を依頼。「中川さんの熱意に心が動かされた」と、梅澤さんが快諾して実現したのです。64人が聴講し、そのうち10社ほどから支援を検討したいとの申し出も！熱意と支援の輪が広がる時間となりました。



広報なばり
2月号

一期一会の笑顔はじける

春のばりフェス いちご祭り (3/22)



名張の魅力を発信する「隠 BALIBALI NABARI fes (ばりフェス)」。3月のテーマは「いちご」です！新鮮ないちご販売をはじめ、絶品いちごスイーツ、いちごクイズにいちごゲーム、さらには「利きいちご大会」まで、まさにいちごのオンパレード！

そんな中、ひときわ異彩を放っていたのが、新作動画の公開に駆け付けた「なんとかなるなるマン」です。カードゲーム「なばばーん!!」を子どもたちと楽しんだり、オリジナル名刺を配ったりと大活躍。特産品で占う「ばりくじ」も人気で、願いを書いてブランドロゴのシンボルツリーに結び素敵な光景も見られました。

3,500人ものお来場者やボランティア、出店者の笑顔や会話が、会場のあちこちで生まれ、まさに「一期一会」の1日となりました。

